大ふるさと大館へ

大館ふるさと会からのたより㊲

会員 村井澄子さん（東京都目黒区在住）

長野オリンピックで日本中が清水選手のスピードスケート、船木、原田選手などの日本ジャンプ団の金メダルにわき、印象的な閉会式が終わったとき、私は五十年前に大館で行われたイベントを思い出しました。それは確か昭和二十五年二月の「全国大学スキー選手権」です。大館の街全体が歓迎ムードに包まれ、大会を盛り上げ、運営したものです。

当時、私は桂高校三年生。終戦直後の高校生にとっては、楽しみの少ない、暗い学生生活でしたが、少しずつスポーツが盛んになり、何となく明るい明日が見えるようになってきたころでした。ですから、このスキー大会への手伝いの募集があったときは大勢の希望者がありました。

我々、桂高校生は開会式当日、大館駅より御成町、栄町、田町、長倉町、鳳鳴高校グランドを通り、当時は畑の中だった長根山スキー場までの間を各大学のプラカードを持ち、道案内をしたものでした。スキー場ではそれぞれが仕事を受け持ち、選手の世話をしました。

また、ジャンプ当日は前日からの雪が一メートルくらい積もり、手伝いの我々や大会運営のかた五、六十人がスキーをはいて、手をつないで、ジャンプ台の下から雪固めをしました。また、会場では、当時は食料難の時代でしたが、甘酒やおみおつけ、おしるこなどで選手をもてなしたような気がします。とにかく、大会期間中、選手を始め、大会運営者を中心として、我々手伝いの人も一生懸命頑張ったものでした。

このような懐かしいイベントが私の青春時代の一ページとして心に残っています。その後、確か昭和二十七年ごろ、スキーの国体が行われ、民宿となった各家庭が各県の選手をお世話したことも思い出されます。

しかし、今大館に帰りましても当時の長根山シャンツェもさびれ、使用されていないのを見ると、とても寂しく思うのは私だけでしょうか。

自然の不思議を体験 長走風穴館

4月3日、長走風穴館がオープン。オープニングセレモニーのあと、一般に公開されました。館内は木材がふんだんに使われ、日光がたくさん入り込み、温かみのある造りになっています。

高山植物群生の不思議を解説する「ミニシアター」

冷気が2階まで吹き込んできます

天王発 ➡ 大館着

前略

大館市民になりました㊹

☆今回は、通町にお住まいの山内康夫さん一家です。

Q・ご家族は何人ですか？

私と妻の洋子（ようこ）と長男の秀太郎（しゅうたろう）と次男の裕晶（ひろあき）の四人です。

Q・どちらからおいでになりましたか？

去年の四月に天王町から来ました。私は、大館市の出身で、二十三年ぶりに大館に戻ってきました。

Q・大館市の印象はいかがですか？

私が住んでいたころに田んぼだったところが住宅地になっており、ずいぶん変わりました。また、大町商店街の人通りが少なくなったことを感じました。今住んでいるところは市街地ですが、非常に静かで、環境もよく、気に入っています。それに、子供たちの遊び場である長木川の河川敷が近いこともいいですね。冬の夜の寒さは全然違いますね。歩いていて顔に痛いというか、寒さが身にしみるという感じです。

Q・言葉や食べものはいかがですか？

大館独特の言葉「ばって」やお年寄りの言葉を聞いてなつかしく感じました。食べ物は、仕方のないことですが、魚や肉類が割高です。野菜は新鮮ですね。ただ、家族で食事ができるファミリーレストランがあったらもっといいのですが。

Q・大館市に望むことは？

ドライバーのマナーについてですが、もう少し、譲り合いの精神が欲しいと思います。また、道路脇のごみや犬のふんが目につきます。まずは、みんながマナーを守るというような、小さなことの積み重ねが大館市をいろいろな面で、よい街にすると思います。ほかに、若者の遊び場や雨が降ったときの子供の遊び場がもっと欲しいですね。